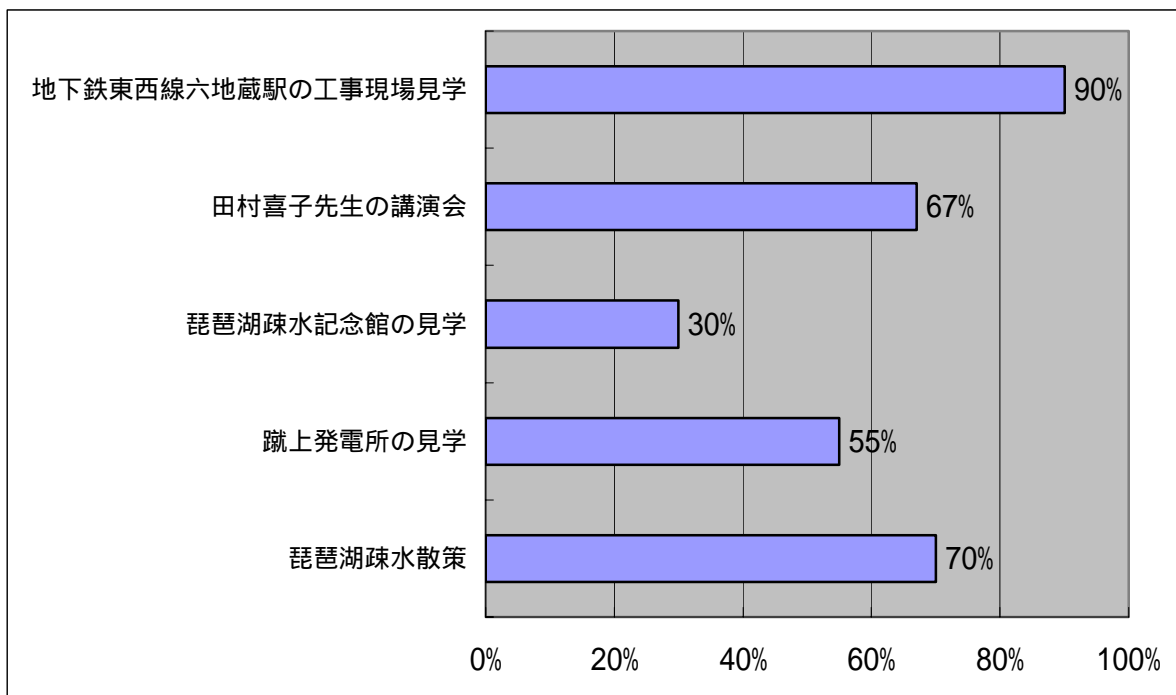


土木学会関西支部 一般市民対象見学会 アンケート結果概要

アンケートでは、次の項目について参加された方に感想をお聞きしました。

- 1 『きょうの見学会でよかったものは?』という質問では、1番は地下鉄東西線六地蔵駅の工事現場見学で回答者のうち90%が、次に琵琶湖疎水散策で70%、田村喜子先生の講演会で67%、蹴上発電所の見学で55%、琵琶湖疎水記念館の見学で30%でした。(複数回答可)

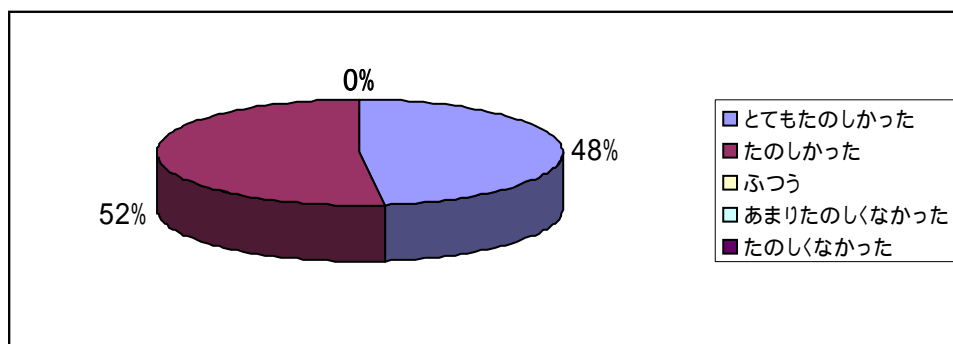


地下鉄東西線六地蔵駅の工事現場見学とされた方の理由としては、

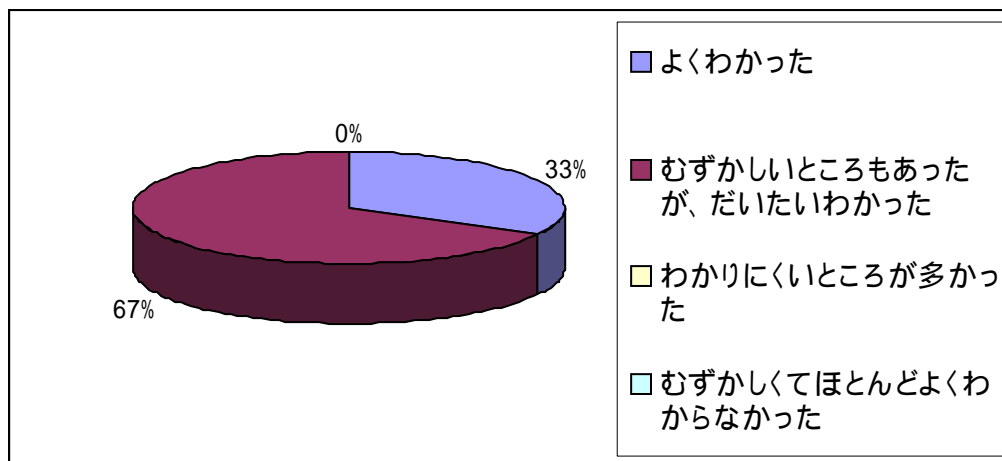
- ・ 線路の上を歩く貴重な体験ができた。
- ・ めったに入れない場所だから。
- ・ 100年前に作られた疎水との比較ができた。

などがあげられました。

- 2 『きょうの見学会は楽しかったですか?』という質問では、とても楽しかった、楽しかったをあわせると100%とすべての方が楽しかったという感想を持っていただきました。



3 『きょうの見学会の内容、また説明はよくわかりましたか?』という質問では、よくわかった、むずかしいところもあったが、だいたいわかったをあわせると100%とすべての方がわかったという感想を持っていただきました。



むずかしかったこととしては、

- ・ 専門用語を使っていたこと
- ・ 地下鉄構内の説明が聞こえにくかったこと

といったご意見をいただきました。

4 『土木についてどう思っていましたか?また、きょうの見学でわかりましたか。』という質問では、

- ・ 琵琶湖疎水開通から約100年余トンネルの掘削方法ひとつとっても発展速度に驚きです。
- ・ 日頃土木の恩恵を受けていながら、マイナス面ばかりの報道が多いので知らずに影響を受けていたが、今日参加して土木は社会共通資本としての感謝の気持ち呼び起こされた。
- ・ 「土木」というものを実生活に結び付けて実感として身近に感じることはなかったが、田村先生の話聞いて、これからは構造物を今までとは違う思いで見ると思う。
- ・ 土木屋さんの情熱を感じた。

といったご意見をいただきました。

5 『見学会の感想や聞きたいことは』という質問では、

- ・ 見る聞く体験を通してより深くわかった。こうして学会で一般への理解を得る努力と実践力に感謝。
- ・ 田村先生には田辺技師の土木屋(技術者)としての人間性を話してほしかった。
- ・ 土木のPRを少し考えられたら如何でしょうか?
- ・ 日本の土木の幕開けが琵琶湖疎水であることをはじめて知った。

などといったご意見をいただきました。

6 アンケートの質問にお答えします。
【京都市交通局の方に教えていただきました。】

Q. あの長い線路はどこからいれるのですか? 電車もどこからいれるのですか?

A. レールは工事中に駅部の地下に1本25mのものを入れておき、駅と駅との間も含めトンネル全体が繋がった後に、先端同士をガスで溶かすなどして繋ぎ、長いレールに仕上げていったものです。また、電車は車庫に大きな搬入口を設けており、クレーンを用いて出し入れしています。(京都市の烏丸線は車庫が地上にありますので地下に直接電車を入れることはありません。)



電車の出し入れ状況

Q . 京都市では掘り出した土はどのように利用しているのでしょうか？

A . 工事で掘り出した土は、駅部の工事のように地上から掘った所の埋め戻しや他の公共工事に利用するようにしています。しかし、それだけでは処理しきれないので、残る土は山を削った跡の処分地などへ運び出します。

Q . 地下鉄工事の延長計画はまだ予定されているのでしょうか？

A . 京都市の地下鉄計画は、平成元年に諮問された運輸政策審議会答申第10号を元にしています。この答申の中で、東西線では現在工事を行っている二条～天神川の更に先の洛西方面への延伸などが計画路線となっていますが、現在のところ具体化はしていません。

【琵琶湖疎水記念館の方に教えていただきました。】

Q . 水路閣はかつてどのように使われていたのですか？

A . かつては洛北地域の農業用水路（疎水分水）としてつくられました。洛北地域は洛東地域より地面が高いため、そのままでは水が流れないので高い位置に水路をつくりました。また、その高さを利用して水車をまわして精米も行っていたそうです。現在は周辺の庭園の散水用として利用されています。

土木学会関西支部では、今回いただいた貴重なご意見を参考に、今後も見学会をよりよいものにしてまいりたいと考えております。